



日本国情

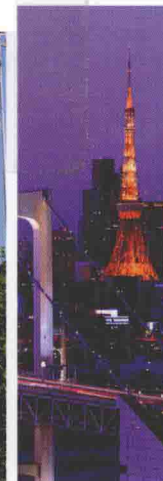
知识手册

3500例

主 审◎王铁桥

主 编◎李先瑞

副主编◎马兰英 魏丽华 李 倩 傅 冰



日本国情 知识手册 3500例

主 审◎王铁桥

主 编◎李先瑞

副主编◎马兰英 魏丽华 李 倩 傅 冰

图书在版编目(CIP)数据

日本国情知识手册3500例:日文/李先瑞主编. —
大连:大连理工大学出版社, 2015. 6
ISBN 978-7-5611-9186-6

I. ①日… II. ①李… III. ①日本-概况-手册-日文 IV. ①K931.3-62

中国版本图书馆CIP数据核字(2015)第125012号

大连理工大学出版社出版

地址:大连市软件园路80号 邮政编码:116023

发行:0411-84708842 邮购:0411-84708943 传真:0411-84701466

E-mail: dulp@dulp.cn URL: <http://www.dulp.cn>

大连住友彩色印刷有限公司印刷 大连理工大学出版社发行

幅面尺寸:185 mm × 260 mm 印张:15.5 字数:412千字
印数:1~2000

2015年6月第1版

2015年6月第1次印刷

责任编辑:许 姗

责任校对:苏 阳

封面设计:董振巍

ISBN 978-7-5611-9186-6

定价:35.00 元



前言

近年来,“学习更多的日本国情知识,才能更好地了解日本”这一理念已被越来越多的日语学习者所认同。为了进一步加强全国各院校日语专业之间的交流,推动日语教学和科研工作的发展,同时也为了提高各院校日语专业学生的学习积极性,使其加深对日本国情的全面了解,我国已经成功举办十届“笹川杯”日本知识大赛和三届中国大学生日本国情知识竞赛。2014年度的“笹川杯”日本知识大赛更是盛况空前,全国共有100所高校的300名选手参赛,这充分体现出各院校对于学习日本国情知识的重视程度。另一方面,有关院校的老师也经常反映:“目前的日本概况教材知识点较为零散,且常识性知识居多,知识更新较为缓慢,无法满足参赛需要。”

为了满足广大日语学习者了解日本的需求,也为参加日本知识竞赛的选手们提供简洁高效且可靠的复习资料,我们洛阳外国语学院几位日语老师共同编写了这本《日本国情知识手册3500例》。

本书特点

- 1.知识面广。本书涉及的日本国情知识包括:语言文字、历史、地理、文学、社会文化、风俗习惯、政治军事、体育文艺、经济技术。
- 2.知识点新。每一章在考虑到传统知识点的同时,尽可能囊括了相关领域的最新知识。
- 3.应用性好。日本知识大赛或日本国情知识竞赛,一般的题型就是选择题或判断正误题,本书主要题型为选择题、填空题和判断正误题,具有较好的应用性。

在本书的编写过程中,参阅了大量国内外关于日本国情知识的著述,在此谨向相关作者表示由衷的感谢。

由于编者水平所限,书中难免有错误或疏漏之处,敬请读者批评指正。

目次

第一章 言語文字篇	001
第二章 日本歴史篇	017
第三章 日本地理篇	042
第四章 日本文学篇	065
第五章 社会文化篇	091
第六章 風俗習慣篇	115
第七章 政治軍事篇	135
第八章 体育芸能篇	157
第九章 經濟技術篇	172
第十章 総合練習	191
参考答案	203
参考文献	239

第一章

言語文字篇

1~400

一 1~100 二 101~130 三 131~170 四 171~300 五 301~400

一、次の文の述べている意味を表す諺や慣用句、熟語をA、B、C、Dから選びなさい。

1. 国家や組織など、団体がしっかりとまとまっていること。	A. 朝飯前 C. 有頂天	B. 一枚岩 D. 二枚目
2. 物価や株の相場や人の地位などが、何かをきっかけに急速に上昇していく様子。	A. 木のぼり C. 鰻のぼり	B. 鯉のぼり D. 京のぼり
3. 長引いて、いつになっても結論の出ない会議や相談。	A. 小田原評定 C. いざ鎌倉	B. 傍目八目 D. 五里霧中
4. 親の威光や社会的地位と権力があまりにも大きい ため、それが子供にまで影響を与えること。	A. 親の欲目 C. 親の七光	B. 親方日の丸 D. 命の親
5. 一見気が利いているようでも、生意気で思慮の足 らない知識のこと。	A. 鯖読み C. 醍醐味	B. 地獄耳 D. 猿知恵
6. 重要な計画や相談などに参画し、知識や技術に長 け、上司・主君に対し忠実であり、なおかつ上司・ 主君から絶大の信頼を得ている部下・家臣のこと。	A. 懐剣 C. 舌の剣	B. 懐刀 D. 打刀
7. 物事の根本的な違いに気付かない愚かな人を指す 言葉。	A. 朝三暮四 C. 十中八九	B. 他山の石 D. 提灯持ち
8. 風流より実利をとる、名より実をとるということ。	A. 花より団子 C. 花を持たず	B. 花に嵐 D. 花も実もある
9. 人はつきあう友や環境によって良くも悪くもな る。	A. 習うより慣れよ B. 朱に交われば赤くなる C. 人の疝気を頭痛に病む D. 長いものには巻かれろ	
10. 初夢に見ると縁起が良いものを順番に並ぶもの。	A. 一石二鳥 C. 一事が万事	B. 一姫二太郎 D. 一富士二鷹三茄子
11. 人が打ちひしがれて、うなだれている状態。	A. 青菜に塩 C. 泣き面に蜂	B. 寝耳に水 D. 焼け石に水
12. 区別しにくいほどよく似ていること。	A. あばたもえくぼ C. 瓜二つ	B. 猫に小判 D. 月と鼈
13. 他より優れている者、目立つ人、でしゃばる人 は妬まれ、邪魔をされること。	A. 出る杭は打たれる B. 猿も木から落ちる C. 負けるが勝ち D. 地獄の沙汰も金次第	

001

14. 人の欲には限りがないこと。

- A. 鶴は千年亀は万年
- B. 亀の年を鶴が羨む
- C. 鶴の一声
- D. 亀の甲より年の功

15. 失敗しないように前もって用意しておくこと。

- A. 転ばぬ先の杖
- B. 先んずれば人を制す
- C. えびで鯛を釣る
- D. 弱い目に祟り目

16. やわらかくてしなやかなものは硬くて強いものより困難にたえる。

- A. 柳に風
- B. 柳に雪折れなし
- C. 根も葉もない
- D. 根掘り葉掘り

17. 何の苦勞もしないで多くの利益を得ること、骨を折らずに金をもうけること。

- A. 猫に小判
- B. 餅は餅屋
- C. 濡れ手で粟
- D. 渡りに船

18. 手近の事情はかえって分かりにくいものである。

- A. 灯台下暗し
- B. 後の祭り
- C. 嘘八百
- D. 一寸先は闇

19. あるはずのないことが実現すること。

- A. 炒り豆に花
- B. 両手に花
- C. 物は言いよう
- D. 物は試し

20. 失敗や過失、あるいは何気なくしたことなどが、偶然によい結果をもたらすこと。

- A. 棚から牡丹餅
- B. 嘘から出た実
- C. 虻蜂取らず
- D. 怪我の功名

21. 愛する者に対しては、欠点さえも長所に見えること。

- A. 知らぬが仏
- B. 柳に風
- C. あばたもえくぼ
- D. 下手の横好き

22. 人に全部世話をしてもらうこと。

- A. 馬の耳に念仏
- B. おんぶにだっこ
- C. 引かれ者の小唄
- D. 暖簾に腕押し

23. 何もしないでよい結果を期待することはできない。

- A. 寄らば大樹の陰
- B. どんぐりの背比べ
- C. 棚から牡丹餅
- D. 蒔かぬ種は生えぬ

24. 不確かな大きな話に乗るよりも、わずかでも今日確実に手に入るほうを受け取るのが賢明であること。

- A. 花より団子
- B. 明日の百より今日の五十
- C. 長者の万灯より貧者の一灯
- D. 年の功より亀の甲

25. 急いで物事をなしとげようとするときは、危険を含む近道に行くよりも、安全確実な遠回りに行くほうがかえって得策だということ。

- A. 五十歩百歩
- B. 他山の石
- C. 急がば回れ
- D. お鉢が回る

26. 相手のすぐれていることを認めて、一步譲って接すること。

- A. 一目置く
- B. 一人前
- C. いざ鎌倉
- D. 傍目八目

27. 言葉遣いや態度が丁寧すぎてかえって失礼なこと。また、外面だけ丁寧で、実は無礼なこと。

- A. 慇懃無礼
- B. 三顧之礼
- C. 行儀作法
- D. 無我夢中

28. 人の目につかないところで、他人のために支える苦勞や努力をすること。また、そのような人。

- A. 聞き上手の話し下手
- B. 縁の下の方持ち
- C. 間違いに刃物
- D. 枯木も山の賑わい

29. ことばを飾ったりせず、思ったことや言いたいことをずばりと遠慮なく言うこと。	A. 舌が回る C. 歯が浮く	B. 舌は禍の根 D. 歯に衣を着せぬ
30. 何度失敗してもくじけず、立ち上がって努力すること。また、人生の浮沈が激しいこと。	A. 四苦八苦 C. 一生懸命	B. 七転八起 D. 自業自得
31. 強いものが何かを得て、さらに強くなること。	A. 鬼に金棒 C. 蛙の面に水	B. 提灯に釣鐘 D. 油に水
32. 人のいない所では強がり、面と向かうと意気地のないこと、またそういう人。	A. 鼠算用 C. 陰弁慶	B. 鼠根性 D. 陰芝居
33. 他人のためにばかり忙しくして、自分のことをする暇がないこと。	A. 紺屋の白袴 C. 牛蒡抜き	B. 他人行儀 D. 白川夜船
34. 物事の判断に困惑している状態。	A. 後生大事 C. 自讃自画	B. 五里霧中 D. 十人十色
35. 努力してももう成功する見込みがないと判断して、諦めてしまう。	A. 匙を投げる C. だしに使う	B. 舌を巻く D. 旗を揚げる
36. 物事が思うようにいかず、もどかしいさま。また、回りくどくて効果が得られないこと。	A. 短気は損気 C. 二階から目薬	B. 針小棒大 D. 高嶺の花
37. 弁舌が達者で、よどみなく流れるようにしゃべること。	A. 玉に瑕 C. 泣きっ面に蜂	B. 月夜に提灯 D. 立て板に水
38. どのような処置も手段も施すことができずに、困りきっている状態。	A. 手の裏を返す C. 足下に火がつく	B. 足に任せる D. 手も足も出ない
39. どれもこれも似たり寄ったりで、抜きん出た者がいないこと。	A. どんぐりの背比べ C. 似たもの夫婦	B. 月とすっぽん D. 似て非なるもの
40. 思いがけない知らせや出来事にひどく驚くこと。	A. 蛙の面に水 C. 寝耳に水	B. 立て板に水 D. 焼け石に水
41. だれからも好かれるように如才なく振る舞う人のこと。	A. 天衣無縫 C. 箱入り娘	B. 八方美人 D. 腹の虫
42. 自分の犯した言動が原因で、苦しんだり災いを受けたりすること。	A. 木を見て森を見ず B. 他人の空似 C. 身から出た錆 D. 木から落ちた猿	
43. 都合の悪いことや醜聞が他に漏れないように、一時しのぎの方法で隠すこと。	A. 話半分 B. 臭いものに蓋をする C. 横紙破り D. 悪事千里を走る	
44. 大勢の人があちらこちらに動きまわって混乱するさま。	A. 得手勝手 C. 海千山千	B. 全身全霊 D. 右往左往
45. 純粹で混じりけがないこと。また、純真で物事にまっすぐ打ちこんでいく性格。	A. 生一本 C. 素封家	B. 紙一重 D. 大黒柱

46. 悪事などを企てて、事件を起こすもととなった者。	A. 張本人 C. 出来心	B. 鉄面皮 D. 八百長
47. 劣ったものを捨て、すぐれたものにより換えること。また、自分にとって不利なほうから有利なほうに切り替えること。	A. 牛も千里馬も千里 B. 牛を馬に乗り換える C. 兎の登り坂 D. 豚に真珠	
48. 想像するだけで見えないもの。実現しないこと。	A. 雨後の筍 C. 無用の長物	B. 雨夜の月 D. 地獄の一丁目
49. 安危・成敗・生死のわかれる、さしせまった場合。運命のわかれめ。	A. 立往生 C. 瀬戸際	B. 真面目 D. 一筋縄
50. 物事を扱う場合の、状況に応じた配慮のしかた。	A. 茶飯事 C. 好都合	B. 匙加減 D. 正念場
51. 才能などの役に立つものを持ちながら、これを活用しないで無駄にしている。	A. 渋柿の長持ち C. 多芸は無芸	B. 掌中の珠 D. 宝の持ち腐れ
52. もうこれ以上がまんできなくなつて怒りが爆発すること。	A. 当たって砕ける B. お先棒を担ぐ C. 木で鼻をくくる D. 堪忍袋の緒が切れる	
53. 相手が約束を守らなかったりして問題が起きるのを防ぐために十分に念を押しておく。	A. 心を鬼にする C. 釘を刺す	B. 鬼の目にも涙 D. 胸に釘
54. わずかな兆候から、役に立つことを見つけ出す能力を持っている。	A. 鼻が利く C. 先が見える	B. 腹を見抜く D. 物が分かる
55. ここの成り行きを心配して息を凝らすこと。	A. 固唾を呑む C. 命を懸ける	B. 色を失う D. 腕を振るう
56. 議論などの対象として取り上げる。	A. 食指が動く C. 心が騒ぐ	B. 俎にのせる D. 株が上がる
57. それまでの楽しかった雰囲気が壊され、気まずい状態になる。	A. 言葉を呑む C. 地団太を踏む	B. 座が白ける D. 席を蹴る
58. あることをきっかけとして、急に物事の真相や本質が分かるようになる。	A. 目頭が熱くなる B. 目を細くする C. 目から火が出る D. 目からうろこが落ちる	
59. 借金などで、どうにもやりくりがつかない。	A. 首を切る C. 首が回らない	B. 首を傾げる D. 首が危ない
60. 内証で物をもらい、または贈ること。	A. 袖の下 C. 火の車	B. 草葉の陰 D. 身の上
61. 人の言うことなどを、よく検討・理解しないでそのまま採り入れること。	A. 素人離れ C. 大袈裟	B. 鵜呑み D. 舌足らず

- | | |
|--|---|
| 62. あれもこれもとねらって一物も得られない。欲張って失敗すること。 | A. 当たらず障らず B. いざ知らず
C. 虻蜂取らず D. 言わず語らず |
| 63. おくびょうな者が陰で虚勢を張り、他人を非難したりすること。 | A. 犬の遠吠え B. お山の大将
C. 阿吽の呼吸 D. 張り子の虎 |
| 64. 程度が分かっている。たいしたことはない。 | A. 花を持たせる B. 年季が入る
C. 高が知れる D. 急所をつく |
| 65. どんなことがあっても、どんな困難に出会ってもやり遂げるという決意。 | A. いやでも応でも
B. 明けても暮れても
C. 安かろう悪かろう
D. 雨が降ろうが槍が降ろうが |
| 66. 古くさくなる、時代遅れになる。 | A. かびが生える B. 閑古鳥が鳴く
C. 雲をつかむ D. 十指にあまる |
| 67. 物事の規模・程度など、その差が非常に大きいこと。 | A. 歯切れが悪い B. 話が早い
C. 骨が折れる D. 桁が違う |
| 68. 物事が中途半端のままである。 | A. 身に余る B. 宙に浮く
C. 調子に乗る D. 途方に暮れる |
| 69. 日ごろの苦勞から解放されて、気ままに楽しむこと。 | A. 命の洗濯 B. 機嫌直し
C. 刺身のつま D. 気晴らし |
| 70. 互いに助けたり助けられたりするさま。 | A. メスを入れる B. 目星をつける
C. 持ちつ持たれつ D. 寄ると触ると |
| 71. いつまで経っても出世しない、生活が向上しない。また、身分がぱっとしない、幸せになれない。 | A. 食うや食わず
B. 痛くも痒くもない
C. 犬も食わない
D. うだつがあがらない |
| 72. 両立しないような二つの仕事を一人で兼ねること。 | A. 畑違い B. 気取り
C. 鬼の霍乱 D. 二足の草鞋 |
| 73. 追い詰められて、どうすることもできない状況。逃れることのできない困難な立場にあること。 | A. 興味津々 B. 絶体絶命
C. 言語道断 D. 残念無念 |
| 74. 脇目も振らずに走ったり逃げたりすること。 | A. 一目散 B. 目白押し
C. 間一髪 D. 几帳面 |
| 75. ある分野の第一人者として、大きな勢力を持っている実力者。 | A. 大御所 B. 十八番
C. 真骨頂 D. 助太刀 |
| 76. 気に入った者に特別に目をかけ、力を添えて助けること。 | A. 横好き B. 最辰
C. 駄洒落 D. 破廉恥 |
| 77. 生活の心配もなく、のんびりと安楽に暮らすこと。 | A. 土壇場 B. 左団扇
C. 無尽蔵 D. 理不尽 |
| 78. 数が多くて値段のきわめて安いこと。 | A. 腹に一物 B. 無くて七癖
C. 二束三文 D. 三日坊主 |

79. すぐれたものは多少悪い状態になっても、本来の価値を失わない。	A. 遠きは花の香 C. 枯木に花	B. 獅子の子落とし D. 腐っても鯛
80. 見かけだけ立派で内容が伴わないことやもの。	A. 棚卸し C. 看板娘	B. 棚上げ D. 看板倒れ
81. 他人におもねりへつらって、自分の利益をはかろうとする。	A. 踏み台にする C. 血を見る	B. ごまを播る D. 水を向ける
82. 世間一般の方式に従っていて、独創性・新鮮味がないこと。	A. 型にはまる C. 手を抜く	B. 口を揃える D. 骨を折る
83. 目的地着いて、すぐ引き返すこと。	A. 鸚鵡返し C. 寝返り	B. 板返し D. とんぼ返り
84. 絶対に大丈夫で間違いないと保障する。	A. 太鼓判を捺す C. 馬力をかける	B. 太鼓を叩く D. 馬が合う
85. 気持ちを引き締め、まじめに物事に対処する。	A. 袖にすぎる C. 襟を正す	B. 袴を脱ぐ D. 兜を脱ぐ
86. 自分の考えを無理をしても通そうとする。	A. 意地を張る C. 煙幕を張る	B. 網を張る D. 体を張る
87. 心配事などがたまって、耐えられないほどである。	A. 手に余る C. 人目に余る	B. 胸に余る D. 力に余る
88. 何か事件が起こった時に、関係がないのにおもしろ半分に見に行く人。	A. 親知らず C. 太鼓持ち	B. 野次馬 D. 肩たたき
89. 前に言ったことと違うことを平気で言う。また、相手によって違ったことを言う。	A. 舌が滑る C. 舌を鳴らす	B. 舌が長い D. 二枚舌を使う
90. ある事をしている最中で、ほかの事をする余裕がない。	A. 手が離れる C. 手がつく	B. 手がふさがる D. 手が回る
91. よく知られていて、特別な便利が受けられる。	A. 顔が立つ C. 顔がきく	B. 顔が広い D. 顔を出す
92. 答えたくない事について、あいまいに、ごまかして言う。	A. 口をきく C. 口を挟む	B. 口を割る D. 口を濁す
93. うれしいことがあって、気持ちが浮き浮きする。	A. 胸が弾む C. 胸がつかえる	B. 胸が晴れる D. 胸がすく
94. 一生懸命に努力する。身が痩せ細るほど苦労する。	A. 身を捨てる C. 身を任せる	B. 身を削る D. 身を寄せる
95. 味方になって援助すること。	A. 肩を並べる C. 肩が凝る	B. 肩を持つ D. 肩で息をする
96. 人間味に欠けて冷酷である。	A. 血も涙もない C. 血が騒ぐ	B. 血が通う D. 血で血を洗う
97. 相手の表情からその人の心をおしはかる。	A. 鼻毛を読む C. 鰭を読む	B. 行間を読む D. 眉を読む

98. 強く憤っている気持ち。

- A. 腹が煮える B. 腹が太い
C. 腹がよじれる D. 腹が癒える

99. あることをしようという気持ちになる。そのことに関心を持つようになる。

- A. 気が散る B. 気が済む
C. 気が向く D. 気が抜ける

100. 多少の不正や欠点をとがめないで、寛大に扱う。

- A. 目に染みる B. 目に焼きつく
C. 大目に見る D. 目に障る

二、次の線のところに適当な語句を入れなさい。

101. 万葉仮名とは、主として上代に日本語を表すために_____の音を借用して用いられた文字のことである。_____での表記に代表されるため、この名前がある。
102. 仮名とは、_____をもとにして作られた文字のことである。現在一般には平仮名と片仮名のことを指す。仮名は_____文字であり、基本的に1字が_____音節をあらわす。
103. _____ははじめ女性のための文字として作られた。
104. 平仮名による最初の文学作品は_____である。
105. 日本語では、用言（動詞、形容詞、形容動詞）と助動詞がもつ語形変化の体系のことを_____という。
106. 現代の日本語では、主に_____、_____と_____の3種類の文字体系が用いられるが、会社名やブランド名などには_____も使われる。
107. 音読みには_____、_____、_____、慣用音などがあり、それぞれが同じ漢字をちがったように発音する。
108. 漢音は7、8世紀、_____や留学僧らによってもたらされた唐の首都長安の発音である。
109. 唐音は_____以降、禅宗の留学僧や貿易商人らによって伝えられたものである。
110. 2010年に日本の文部科学省によって改定された常用漢字表は_____字からなる。
111. _____とは、「見る」のような上一段活用動詞、「食べる」のような下一段活用動詞、また力変動詞「来る」の可能表現として、それぞれ「見れる」「食べれる」「来れる」とするものである。
112. 明治時代には、日本の文学者の中から文語の代わりに口語体で文章を書く_____運動が起こった。
113. 歴史的仮名遣とは一般には、江戸時代中期の契沖による契沖仮名遣を修正・発展させ、明治から第二次世界大戦終結直後までの公文書や_____において用いられたものである。第二次世界大戦ののち、国語国字改革の流れによって_____が告示されるまで、公教育の場で正式な仮名遣として教えられていた。

114. 学校文法とは現代日本の学校教育において、国語教育の際に準拠している文法のことである。_____文法をベースとしている。
115. 日本語の文は、目的や場面などに応じて、「だ」「である」「です」「ます」などさまざまな異なった様式を採る。この様式のことを、_____という。
116. 2013年TBS系ドラマ『半沢直樹』の主人公の台詞「やられたらやりかえす、_____だ」は、その年の流行語になった。
117. 日本語では、待遇表現が文法的・語彙的な体系を形作っている。とりわけ、_____において顕著である。
118. 日本では、旧暦_____月を「師走」または「極月」と呼び、その由来は僧侶、つまり「師」が仏事で走り回る忙しさからという平安時代からの説がある。
119. 日本語には同じ読みで意味の違う言葉が多い。たとえば、「あつい」は使われる意味によって_____, _____、_____, _____と、四つの漢字で書き分けられる。
120. 漢字2字の熟語の上の字を訓として、下の字を音として読むのを「_____読み」という。その反対の読み方を「_____読み」という。
121. 平仮名ができるまで、日本語は_____で書かれていた。
122. 学校文法では、まず自立語か_____か、それから活用の有無と活用の形態によって品詞を分類する。
123. 日本語では、活用する動詞、形容詞と形容動詞をあわせて_____といい、活用しない名詞、数詞と代名詞を_____という。
124. 日本語の動詞を形態により3種類に分ける。_____, _____と不規則動詞（「する」と「来る」）である。
125. 格助詞は主に_____に付いて、文の中での意味関係を表す。
126. _____は日本語の品詞の一つで、体言の修飾だけを役目とする日本語特有の品詞である。
127. 外来語をはじめとする新語に対して、旧来から存在する和語や漢語をあわせて_____という。
128. 日本語の中で使われる外来語の言葉一つ以上を元にして作られ、かつ、元の言語には存在しない言葉を_____という。たとえば、「テーマソング」がそれである。
129. 平安時代から、発音を簡便にするために単語の音を変える音便現象が少しずつ見られるようになった。音便には「泳ぎて」を「泳いで」とするなどの_____, 「立ちて」を「立って」とするなどの_____, 「飛びて」を「飛んで」とするなどの_____が現れた。
130. 日本語には、同じ行為でも、話し手の視点によって使う表現が異なる場合がある。たとえば、_____, _____などがそれである。

三、次の言い方が正しければ「○」、正しくなければ「×」をつけなさい。

131. 日本語の半濁音は最初ポルトガル人によって使い始められたのである。 ☐
132. いろは歌とは、50字の仮名を重複させずに使って作られた誦文のことである。 ☐
133. 言語を形態上から分類すれば、日本語は膠着語に属する。 ☐
134. 日本語には多音字が多く、漢字の読み方によって意味が異なる場合がある。
たとえば「悪」を「アク」と読めば「悪い」の意味で、「オ」と読めば「憎む」などの意味である。 ☐
135. 訓読みは、日本語固有の読み方であり、すべての漢字に訓読みが存在する。 ☐
136. 常用漢字表の目的は、法令、公用文書、新聞、雑誌、放送など、一般の社会生活において、現代の日本語を書き表す場合の漢字使用の目安であって、強制力を有するものである。 ☐
137. 日本語のアクセントは方言差が激しいが、多くの方言は高低アクセントに属する。 ☐
138. 日本語の語彙を出自から分類すれば、大きく、和語・漢語・外来語に分けられる。 ☐
139. 和語とは、漢語と外来語を除いた日本語の固有語を指す。「海」「桜」などの名詞、「よい」などの形容詞、「勉強する」のような動詞、すべての助詞などがあげられる。 ☐
140. ひらがなは平安時代ごろからできた。 ☐
141. ひらがな「あ」のもとになった漢字は「女」である。 ☐
142. 日本語では一般に外来語はカタカナで表記されるが、漢字を当てる場合もある。 ☐
143. 2013年、インターネット上の日本語使用者数は、英語、中国語、スペイン語、アラビア語、ポルトガル語に次いで6番目に多い。 ☐
144. 百済から日本に渡来し、千字文と論語を伝えたとされる人は王仁である。 ☐
145. 日本語の表記体系はほかの言語に比べて複雑である。 ☐
146. 日本語文では、述語が文の一番最後に来る。 ☐
147. 日本の国土が狭いため、日本語は日本全国に通用し、方言の種類が少ない。 ☐
148. 日本語には人称を表す言葉が少なく、あまり使わない。 ☐
149. 日本語には擬声語・擬態語が豊富であるが、形容詞の語彙量が少ない。 ☐
150. 日本語の語彙で中核部分を占めるのは漢語である。 ☐
151. 「畑」「辻」などの漢字は和製漢字である。 ☐
152. 「多分」「出鱈目」「期待」などは当て字である。 ☐
153. 大阪弁では「ありがとう」を「おおきに」という。 ☐

154. 沖縄弁では「いらっしゃい」を「めん～それ」という。 ☐
155. 携帯の顔文字「m(_ _)m」は「こんにちは」の意味である。 ☐
156. アイヌ語の「アイヌ」とは「自然」の意味である。 ☐
157. 「老婆心ながら申し上げる」という言い方があるが、「老婆」とは「おばあさん」の意味である。 ☐
158. 日本の警察が使う隠語「マル暴」は「暴力団」という意味である。 ☐
159. 「天地無視」は荷物などを上下逆にはいけないという意味である。 ☐
160. 「新語・流行語大賞」の入賞語はすべて一般的な語彙として定着していくものである。 ☐
161. 「一期一会」とは、書道に由来する言葉である。 ☐
162. 「お茶の子さいさい」は簡単にできるという意味で、「お茶の子」とはお茶に添えて出されるお菓子のことである。 ☐
163. 「口八丁手八丁」とは、言うこともやることも達者であるという意味であるが、油断のできない人だというニュアンスがあるので、あまり褒め言葉には用いない。 ☐
164. 家庭内で、妻の権力が強くて夫の頭があがらないことを「亭主関白」という。 ☐
165. 「貧乏暇なし」とは生活に追われて忙しい毎日を送っているという意味だが、貧しくなくても、忙しい人が謙遜して言う場合が多い。 ☐
166. 「和魂洋才」は明治以前にできた言葉である。 ☐
167. 「ロコミ」は互いに口から口へ情報を伝える意味である、「コミ」は「コミュニケーション」の略である。 ☐
168. 鮭の卵は「イクラ」というが、それはロシア語からきた言葉である。 ☐
169. じゃんけんをやる時、石、はさみ、紙をそれぞれ「チョキ」「パー」「グー」という。 ☐
170. ハンサムな男の子のことを「ジャニーズ系」という。「ジャニーズ」とは「ジャニーズ事務所」の略称で、SMAPなどの所属する事務所である。 ☐

四、次の文が成り立つように、線のところに適当な言葉を入れなさい。

171. 一日中山の中を歩いて、足が_____になった。
172. 大卒っていっても、大学にもピンから_____までであるからなあ。
173. やることが行き当たり_____で、必要なときに間に合わない。
174. 魚心あれば_____で、今回の件に関してはこちらも譲歩する考えでいる。
175. 勇気を持って漫談に挑戦したのに、誰も笑ってくれないどころか、神経を疑われた。穴があったら_____気持ちだった。
176. 国家試験を受けるなら、石の上にも_____の気持ちで励まないといけないよ。

177. あの人は仕事中にいつも_____を売って、ぜんぜん集中しない。
178. 成功する保証はないが、一か_____か思い切って自分の会社を作ろう。
179. 連日の暑さで、海水浴場は_____を洗うような込み具合だった。
180. 大臣の側近が本当の犯人だったらしいよ。本当に裏には_____があるものだね。
181. あの会社のサービスセンターに質問すると、いつも打てば_____ように明快な答えが返ってくる。
182. 昨日のは売り言葉に_____というやつで、本心じゃなかったんだ。どうか許しておくれよ。
183. 同じ兄弟なのに、兄と弟の運動神経には雲泥の_____がある。
184. 実現できない企画はしょせん絵に描いた_____だ。
185. あのスピードで走られては、うちのチームは手も足も_____。
186. 借金を申し込まれたが、_____を濁して断った。
187. 社会人になったのだから、いつまでも親の_____をかじっていてはいけない。
188. 猫の_____のような狭い土地だが、駅前の一等地だ。
189. その旅館は、痒いところに手が_____もてなし方だった
190. 入浴の時間がきわめて短いことを「_____の行水」という。
191. 注文が殺到して、猫の手も_____ほど忙しい。
192. こんな出来では、老舗の看板が_____よ。
193. まだ勉強中で、一人前になっていない人のことを、たとえば「医者_____」などという。
194. ライバル会社同士で争っている隙に、無名の会社が_____の利を得る結果となった。
195. セールスマンの_____に乗って高い品を買わされた。
196. 事故の示談交渉は、兄に_____を預けることにした。
197. コーチは心を_____にして、選手たちを鍛えた。
198. 雪山で遭難したときに助けてくれた人がいて、まるで地獄で_____に会ったような気持ちだった。
199. 今やめたら、これまでの努力が水の_____になってしまうよ。
200. 決勝戦だから、手に_____を握って見ていた。
201. 最近では、猫も_____も携帯電話を持っている。
202. 母はちょっとしたことでも根掘り_____聞くのでうるさくてしょうがない。
203. ショーケースに飾られたその時計を、喉から_____が出るほどほしいと思った。
204. このままでは赤字が確定するかもしれないが、乗りかかった_____だ。諦めないで最後までがんばっていこう。
205. 彼はいつも歯が_____ようなお世辞を言う。
206. わがチームは破竹の_____で勝ち進んだ。

207. 会社の不正問題が報道されてから、社員は_____の筈に座らされているような毎日が続いている。
208. 娘が嫁いで家の中は火の_____ようだ。
209. あの頑固で偏屈な社長の弁慶の_____は、孫娘だったらしい。
210. 飲酒運転による事故で、人生を_____に振った。
211. 弟の結婚が決まり、姉には子供が生まれ、まるで盆と_____が一緒に来たようだ。
212. 放課後、すぐ家に帰らないで本屋で道草を_____ていた。
213. この話はもう父から_____にたこができるほど聞かせられた。
214. 彼女の猫なで声を聞いただけで虫酸が_____。
215. あんなにきびしかった父が、孫が生まれてからは目尻が下がり、まさに、目に入れても_____という状態だ。
216. わが社の製品にかぎって、安かろう_____ということはありません。
217. 父は写真を取り出して、_____から棒に見合いを勧めた。
218. 彼と話していても埒が_____から、部長を出してくれ。
219. 夫は相槌を_____て話を聞いていたくせに、全く内容を覚えていなかった。
220. 若いころの兄は切った_____のけんかばかりしていた。
221. 名画に囲まれて育ったので、彼は目が_____ている。
222. 忘年会の余興で女装した彼に、一同は呆気に_____ばかりだった。
223. あの人には本当に世話になったので、足を向けて_____。
224. 一生恩に_____から、この仕事を手伝ってくれないか。
225. 子供を両親に預け、_____を引かれる思いで海外に出張した。
226. 駅で大声で呼びかけたら人違いで、顔から_____が出る思いをした。
227. 入学試験の結果が心配で、いても立っても_____気持ちだ。
228. 夕べは酔っ払って、部長の前でおだを_____てしまったらしい。
229. 二十年にわたる家のローンがやっと終わり、_____が軽くなった。
230. 子供の帰りが遅いので、気が_____でなくて外に出てみた。
231. 社長が贈賄容疑で逮捕されると、社員にまで_____目で見られた。
232. 一目見て欲しくなった時計だが、値段を考えると二の_____を踏んでしまう。
233. 三十歳を過ぎたというのに、親の顔に_____を塗るようなことばかりしている。
234. 思い出話に花が_____、夜が更けてしまった。
235. あまりに不甲斐ない試合に、コーチの腹の虫が_____た。
236. 跡を追って来る子猫を_____に見かねて、とうとう飼うことにした。
237. 有名作家に面会を求めたが、門前払いを_____てしまった。
238. あなたのお帰りを首を_____して待っておりました。
239. 私の目の_____うちは、勝手なまねはさせないぞ。
240. 雨に降られ、おまけに渋滞で、踏んだり_____の休日だった。